

# 「SSS 英語学習法」による自律的英語学習支援の試み

(大分工業高等専門学校) ○佐藤秀則, 佐野博昭

## 1. はじめに

「やさしい本から圧倒的な量の英文を読もう」という SSS(Start with Simple Stories)英語学習法が社会人の間でブームになっている。JABEE に向けて英語力向上が急務となっている高等教育の現場でも、この学習法をベースとして英語教育に取り組む例が増えている。

大分高専において半年間専攻科学生を対象にこの学習法を試みた結果、学生から「英語に慣れていく感覚があつて楽しめた」、「英語の長文が怖くなくなった」などの感想を得ている。この試みについて報告する。

## 2. SSS 英語学習法

英語の学習法はこれまでもたくさんの方法が提案されているが、衆目が納得する決め手となるような方法論は未だに得られていない。現在でも新しい方法が提案され続けているが、数年前より一般の方々に広く受け入れられるようになった第二言語学習法に「SSS 英語学習法」<sup>1)</sup>がある。

この学習法は「やさしい本から圧倒的な量の英文を読もう」とする多読学習法の一つである。多読学習法についてはこれまでも優れた方法として提唱されてきたが、途中で挫折する学習者が多かったとされている。これに対し、「SSS 英語学習法」はやさしい本から読みはじめるとする点が特に強調されており、英語学習の初級者から上級者まで広く受け入れられている。

この方法は酒井<sup>2)</sup>によって提唱され、酒井を中心とする SSS 英語学習法研究会が普及に努めている。この学習法の核心となる多読三原則は次のとおりである。

- ① 辞書は引かない
- ② わからないところは飛ばす
- ③ 進まなくなったら途中でやめる

これまでの精読法による学習法の常識と正反対であるが、多読法としてもこれまでの方法より一歩踏み込んでいる。

SSS 英語学習法の広がりを支えた見逃しては

ならない重要な活動にインターネットを活用した掲示板がある。SSS 英語学習研究会ではホームページを立上げ、この学習法の詳細を紹介している他、自由に書き込める多くの本の書評や学習者同士のコミュニケーションが図れる掲示板を用意している。

多読による英語学習はそれ自体個人的な学習によるものであるが、この掲示板により学習する者同士が互いに相談者となり、互いに高めあうネットワークができています。このネットワークは「SSS 英語学習法」という共通の学習法に支えられているだけでなく、それぞれの本のもつ語りの強さが学習者に共鳴し、その感動を他者とも共有したいという欲求にも支えられている。

## 3. 大分高専での多読学習の試み

高専は高校に義務付けられている指導要録がなく、教官の自由裁量で英語教育ができるほか、多くの高専に LL 教室が設置されるなど恵まれた状況下にあった。しかし、高専生は大学受験を目指す高校生に比べモチベーションが低く、その結果、英語力は低いといわれている<sup>3)</sup>。

最近では多くの大学の理工系学科や高専が JABEE 認定を受けるため、学生の英語力向上が急務となっている。大分高専でも英語力向上のための方策として昨年度より専攻科生対象の多読学習を試みている。

多読用書籍は約 800 冊(表 1, 総額約 40 万円)を購入し、昨年 9 月末に図書館にて利用できるようにした。また、11 月から 2 月初旬まで専攻科 1 年生に呼びかけ授業の合間の金曜 1,2 限を利用して図書館閲覧室で一緒に多読をはじめた。単位にはならず自由参加である。参加者は全員で 10 名であるが、いつもは 5~10 名程度の参加であった。

表 2 に多読用書籍の貸出冊数を月別、学年別にまとめている。図書館の新刊本の多くが読まれずに眠るケースが多い中、学習指導をしていない 10 月の多読用書籍の貸出冊数の 84 冊は少なくない数字である。図書館の年間貸出冊数が例年 8 千冊位であったのが昨年は多読用図書の出分約

1300 冊の増加があり、利用度が顕著に上がった。

本科の学生には一緒に読む時間は設けなかったが、多読用書籍を読むように個人的に呼びかけた。指導の全くない中、2, 3, 5 年生の貸出冊数が減少しているが、4 年生では多かった。図書館に多読用図書を置くだけでも一定の成果を期待できるが、自律的学習にも適切な指導が必要であることがうかがい知れる。

専攻科生を対象に多読指導を始めた 11 月から、専攻科生の貸出冊数が非常に多くなっている。指導を受けた学生には独自に用意した読書カードに読んだ本、読書量(単語数)、簡単な感想を書いて

| シリーズ名                              | 冊数  |
|------------------------------------|-----|
| Oxford Reading Tree Stage 3~8      | 82  |
| Step into Reading Early Step 1~4   | 80  |
| Penguin Young Readers Level 1~4    | 68  |
| Macmillan Guided Readers Level 1~2 | 40  |
| Penguin Readers Level 0~6          | 379 |
| Oxford Bookworms Library Stage 0~6 | 151 |
| Oxford Bookworms Factfiles 1~4     | 36  |
| 合計                                 | 836 |

表 1 多読用書籍

| 月   | 1年 | 2年 | 3年 | 4年  | 5年 | 専攻<br>1年 | 一般  | 教職<br>員 | 合計   |
|-----|----|----|----|-----|----|----------|-----|---------|------|
| 10月 | 0  | 0  | 12 | 1   | 10 | 3        | 20  | 38      | 84   |
| 11月 | 0  | 33 | 16 | 8   | 11 | 147      | 7   | 134     | 356  |
| 12月 | 4  | 13 | 7  | 39  | 16 | 142      | 12  | 68      | 301  |
| 1月  | 2  | 12 | 3  | 39  | 7  | 79       | 9   | 22      | 173  |
| 2月  | 0  | 6  | 0  | 61  | 1  | 71       | 78  | 29      | 246  |
| 3月  | 0  | 1  | 2  | 19  | 0  | 46       | 76  | 16      | 160  |
| 合計  | 6  | 65 | 40 | 167 | 45 | 488      | 202 | 307     | 1320 |

表 2 多読用書籍貸出冊数

| 学生 | 読書量     |        | 読速    |
|----|---------|--------|-------|
|    | (単語数)   | (冊数)   | (語/分) |
| A  | 732,000 | 100    | 215   |
| B  | 360,000 | 51     | 198   |
| C  | 283,000 | 40     | 150   |
| D  | 243,000 | 30     | 177   |
| E  | 92,000  | 16     | 93    |
| F  | 64,000  | 13     | 121   |
| G  | 33,000  | 16     | 84    |
| H  | 25,000  | 16     | 114   |
| I  | 18,000  | 7      | 147   |
| J  | (記録なし)  | (記録なし) | 135   |

表 3 学生の読書量 ('03 年 11 月 ~ '04 年 2 月)

| 専攻科 1 年生         | 専攻科 2 年生          |
|------------------|-------------------|
| 92 語/分 (母数 17 人) | 141 語/分 (母数 10 人) |

表 4 多読経験の有無と読速 ('04 年 4 月実施)

もらっており、4 ヶ月間のそれぞれの読書量を表 3 に記す。中学・高校の英語授業で触れる英語量はせいぜい 10 万語程度とされる中、これを凌ぐ量の英語を読んだ学生が高い割合で出ている。

一方、半数以上はさほど読んでいたとは言えない。原因は学年末に向けて他の学習が忙しくなったことと、レベルを上げすぎて多読が進まなくなった学生がいることが考えられる。

新年度の 4 月に「The Adventures of Tom Sawyer」など比較的易しいとされる 3 つのレベルの本の中から一部を切出し(約 500 語程度)、それを読む時間から読速を計ってみた結果(表 3)読書量の多い学生は比較的読速も早いことが示唆された。また、表 4 は多読指導を 4 ヶ月間受けてきた専攻科 2 年生とあらたに指導を受けるようになった専攻科 1 年生の読速の関係を示しており、多読経験が読速を早めている可能性が示唆されている。

#### 4. まとめ

本稿では「やさしい本から圧倒的な量の英文を読む」ことに関して、多読用図書を図書館で利用できるようにし、学生に多読指導を実施した例を報告した。その結果次のようないくつかのことがわかった。

○多読用図書の設置により、図書館の利用度が上がった。

○多読指導を受けた学生の中から多量の英語を読む学生がたくさん出た。

○多読が読速を速めることが示唆された。

一方、いくつかの課題も残されている。

○適切な多読指導がないと持続しない可能性がある。

○学生の向上心が強すぎ、レベルの高い本を読もうとするあまり、多読が失速する。

「SSS 英語学習法」による自律的英語学習支援はまだ始まったばかりであり、多読が英語力の向上にどのように寄与するのかは、今後の研究が待たれる。

#### 参考文献

1) 酒井邦秀, “快読 100 万語! ペーパーバックへの道”, 筑摩書房, 2002.

2) 国立高等専門学校協会, 平成 13・14 年度教育方法改善共同プロジェクト, “コミュニケーション能力育成を主眼とした高専英語教育のありかた—中間報告書—”, 2002.